

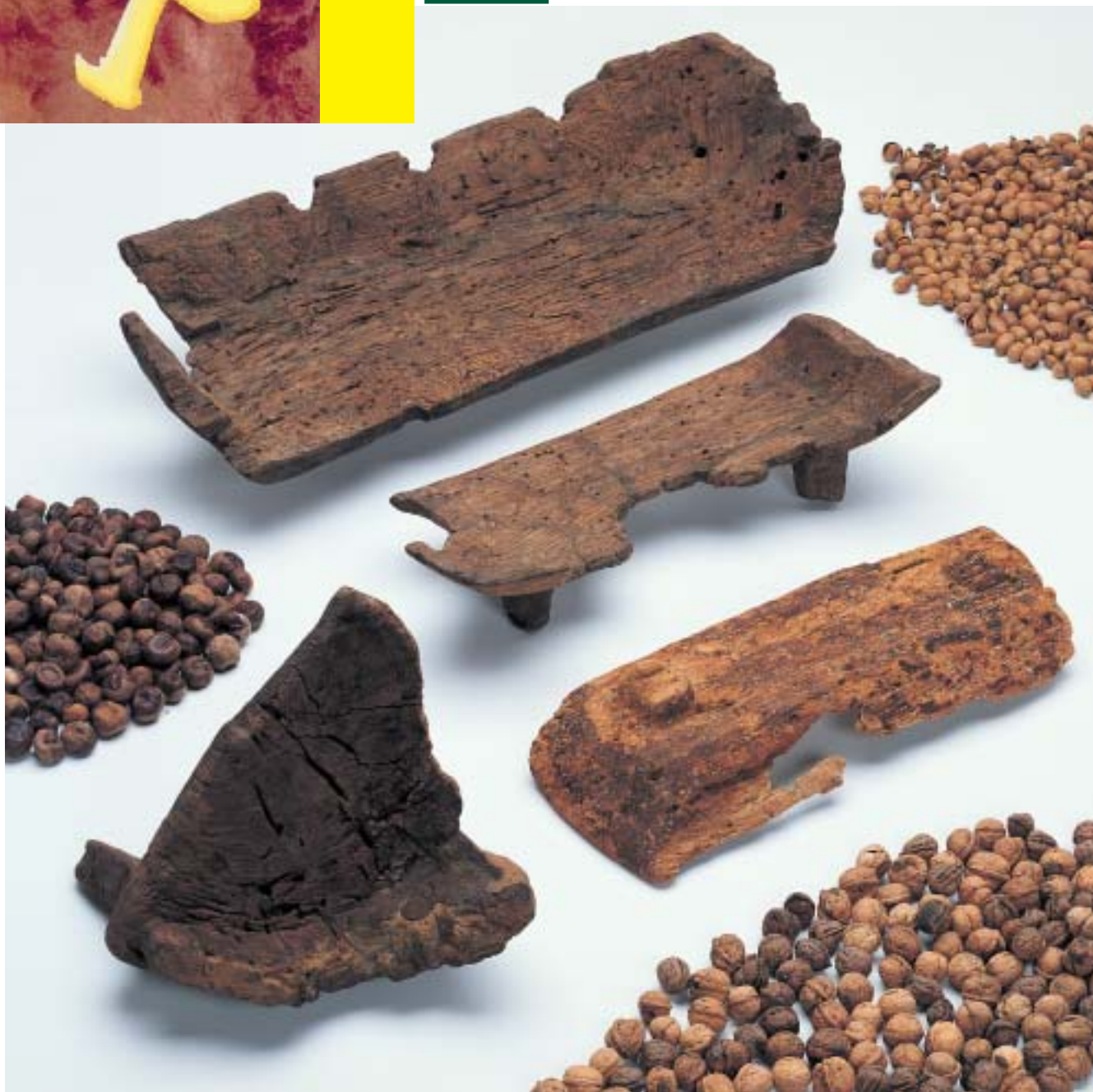


# teeta



## 「テエタ」

「テエタ」はアイヌ語で“昔”を意味します。北の大地で繰り広げられた昔の人々の文化や環境を、現在と未来の人々に伝えるのが私たちの仕事です。昔のこと、古いことを広く知ってほしいという願いを込めて「テエタ」をこの冊子のタイトルにしました。



千歳市キウス4遺跡出土脚付容器と把手付容器（縄文時代後期）

※木の実 は 現生 の もの です。

- 千歳市キウス4遺跡R地区出土の木製品について .....2
- 平成15年度調査の遺跡 .....4
- 平成15年度発掘調査一覧 .....6
- 平成16年度発掘調査予定一覧 .....7
- 「北の縄文文化回廊」に向けて .....8

## ○千歳市キウス4遺跡R地区出土の木製品について

平成10(1998)年5月、北海道横断自動車道千歳東I.C.設置予定地の最後の発掘調査が当センターの三つの課（調査員17名、作業員約240名）により開始されました（図1）。遺跡の名称はキウス4遺跡といます。この遺跡から北東約300mのところには、縄文時代後期後葉に作られた大規模な集団墓地である国指定史跡「キウス周堤墓群」があります。平成5(1993)年から開始したキウス4遺跡の調査でもほぼ同時期の周堤墓と大量の遺物が出土しました。

同年10月、遺跡の南西部にあるR地区の低地部分から縄文時代後期後葉（今から約3200年前）の木製品が出土しました（図2、写真1）。出土した主な木製品は石斧柄、脚付容器\*、把手付容器、杭などがあり、破片を含めると約590点になりました。出土した木製品のなかで脚付容器などについては、大型で収縮、変形しやすい木取りであり、また資料として大変貴重なことから保存処理を外部に委託しました。今回これらの処理作業が終了して当センターに戻ってきましたのでこの脚付容器を中心に紹介します。（※報告書では脚付舟形容器としたが、全体の形状が舟形より盆状に近いため、ここでは脚付容器とした。）

脚付容器はいずれも全体の半分程度しか出土しておらず、本来は脚部が4カ所についた盆状の容器と思われます。脚付容器①は長さ約73cm、幅約27cm（現存長）で長い方の口縁部に3カ所の挟りこみがあり、底面には脚部の破損痕が2カ所あります（写真2・4）。脚付容器②は出土した時に細かく破損していなかったため、すでに報告が終了したものです。大きさは長さ53cm、幅約18.9cm、脚部2カ所に残っています（写真6）。脚付容器③は長さ約50cm、幅約19cm（現存長）です。調査区内の水を遮断するために設置した鋼矢板などにより破損してしまいましたが、脚部は2カ所とも良く残っています（写真3・5）。

把手付容器（写真3・7）は縦割りにした木の内部をくりぬいて端部に把手と思われるものを2カ所（残っているのは1カ所のみ）付け、持ちやすくしています。全体の長さは不明ですが、おそらく両端に把手を付け二人で持ち運んだと思われます。現存する大きさは幅約32cm、長さ約20cm、容器の深さは約22cmです。把手の長さは約10cmあります。

これら容器類の木の種類はトネリコ属と同定され、ヤチダモ、アオダモなどが推定されます。これらの木は堅く粘りがあるため家具や野球のバットなどに利用されています。縄文時代の木の利用については、これまでの調査例からその用途によって木の種類を使い分けていることがわかってきています。キウス4遺跡から出土した木製品などについても同じような傾向が見られます。

キウス4遺跡R地区の整理作業には土器片などの遺物が大量に出土したことから4年間を要し、平成15年3月に報告書を刊行、調査を完了しました。なおこれら未報告の木製品については今後実測図、写真撮影等をおこなって別な機会に正式な報告をする予定です。



図1 キウス4遺跡の位置図（5万分の1地形図「恵庭」を使用）

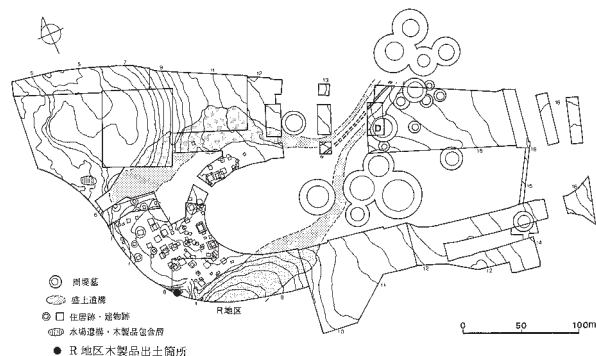


図2 キウス4遺跡全体図とR地区木製品出土箇所



1 キウス4遺跡R地区木製品等出土状況



2 脚付容器①出土状況



3 脚付容器③と把手付容器出土状況



4 脚付容器①



5 脚付容器③



6 脚付容器②



7 把手付容器

## 平成15年度調査の遺跡

 ○<sup>ちとせ</sup>千歳市 キウス5遺跡

遺跡は、馬追丘陵西麓に位置し、キウス川右岸の段丘から低位部に広がり、平成6～10年度には高速道路建設に伴う発掘調査を実施しています。平成15年度の調査は国道の新ルート建設工事に伴うもので、丘陵端部の台地部と川沿いの低位部が対象です。台地部では縄文時代中期後半の竪穴住居跡12軒を確認しました。平面形は円～楕円形で大小があり、最小は径約2.1mと小型です。低位部では上面で近世の畑跡が確認できました。さらに掘り下げると縄文時代から近世までの幾筋ものキウス川の旧流路が現れました。遺物の総点数は約2万点で、土器は縄文中期後半・後期・晩期が多く、旧流路では早期も目立ちます。石器は石斧・台石・石鎌・スクレイパー・砥石が多く、旧流路では早期の土器に伴ってつまみ付ナイフも出土しています。旧流路の木製品は約200点で、近世相当の炉鉤・竪杵・曲物・桶側板や縄文晩期の「キウス型横槌」の破片もあります。



河道跡完掘

 ○<sup>むかわ</sup> <sup>よねほら</sup>鶴川町米原4遺跡

遺跡は、鶴川町の南部を流れるイモッペ川の右岸にあります。これまでの発掘調査では、縄文時代中期の竪穴住居跡5軒などが見つかっています。今回は、縄文時代のたき火跡や、エゾシカをとるための落とし穴を調査しました。たき火跡は25ヵ所見つかりましたが、まわりで出土した土器などからみると、縄文時代早期・前期・中期・後期のものがあるようです。遺物は、土器5,345点、石器など10,984点が出土しています。



包含層調査状況

 ○<sup>しらおい</sup>白老町ボンアヨロ4遺跡

遺跡は、白老町の市街地より南西へ約15kmの虎杖浜地区にあり、ボンアヨロ川の左岸、標高20～30mの南西向き緩斜面上に立地しています。平成10年度に白老町教育委員会により東側の斜面部分が調査され、縄文時代早期と中期の遺構・遺物が多く確認されています。

今年度は、台地の縁辺部分とボンアヨロ川の旧河道および氾濫原を調査し、土器や石器等約1,200点が出土しました。土器の主体は縄文時代中期後半の中茶路式で、約6,000年前に降下したと考えられる火山灰（駒ヶ岳gテフラ）より下位で出土しています。また、大きな凝灰岩の板状礫が割れた状態で出土しました。



中茶路式土器出土状況

もりさんじろうがわうがんとさんじろうがわさがん  
 ○森町三次郎川右岸遺跡・三次郎川左岸遺跡



三次郎川右岸遺跡調査状況



三次郎川右岸遺跡竪穴住居跡調査状況



包含層調査状況

遺跡は、森町市街地から11.5km北西方向に位置し、内浦湾に注ぎ込む三次郎川兩岸の河岸段丘上にあります。「右岸遺跡」、「左岸遺跡」は、三次郎川で分けられています。調査地点は、河口から直線距離で約400m遡ったところで、標高35～43mほどです。遺跡の保存状態は、駒ヶ岳火山灰d層(Ko-d)に厚く被覆され、良好でした。

両遺跡とも縄文時代中期から後期、続縄文時代を主体とするものですが、段丘平坦面発達度合いによるのか、左岸遺跡では遺構・遺物とも希薄です。

右岸遺跡では、竪穴住居跡12軒、石組1基、土坑60基、焼土15ヵ所などが検出され、53,000点余りの遺物が出土しています。竪穴住居跡には、埋甕をもつものや掘り込みの浅いもの、壁際に溝をもつものなど様々な形態があります。未調査区を残し全体像は定かではありませんが、その中でも掘り込みの浅い竪穴は、調査区の下流側（調査範囲北側）に並んで確認され、分布域がまとまることが予想されます。土坑もまた、フラスコ状のものや大型礫を伴うもの、掘り込みの浅いものなど多様です。また、石組は下部に土坑をもつもので、形状はフラスコ状です。ほかのフラスコ状土坑との関連が考えられます。焼土は続縄文時代のも（包含層上部で確認）が多く、現場確認時点でも焼骨片が多量に観察されました。上流側（南側）に多く分布し、その周辺には多くの遺物が散在する状況でした。

むかわみやと  
 ○鶴川町宮戸4遺跡

遺跡は、鶴川町の市街地から東南東約5kmに位置し、一級河川鶴川を隔て、鶴川の支流イモッペ川の左岸、標高約16～20mに立地しています。

調査区は平成12年に調査した宮戸3遺跡に隣接し、尾根上の地形が緩やかに傾斜しながら低地部に続く丘陵の末端部分にあたります。

検出した遺構は、シカ等を狩るための落とし穴と考えられるTピットが33基、焼土が15ヵ所見つかりました。Tピットは尾根上から低地部分に至る斜面上で多く検出され、沢地形を意識して構築されています。つくられた時期は検出層位等から縄文時代中期後半から後期初頭のものと考えられます。

これに対し焼土は尾根上の平坦な所でまとまって見つかり、検出層位と出土した遺物等から縄文時代早期後半頃の所産と考えられます。

### ○平成15年度の調査概要

今年度は道内11市町村に所在する27遺跡で発掘調査を実施しました。以下に調査の成果を時代、時期順に略述します。

旧石器時代…旧白滝5遺跡では、前半期の石器群（台形様石器群）、後半期の石器群（細石刃石器群）が出土しました。縄文時代草創期かと予測される小型で精細な加工の尖頭器も認められます。

縄文早期…柏木川13遺跡で検出された住居跡はアルトリ式土器の時期のもので、床面から土器、石斧などが出土しています。ポニアヨロ4遺跡では、駒ヶ岳g火山灰層（別名幌別火山灰）よりも下位から、中茶路式土器の残存状態の良好なものが出土しています。

縄文前期…西島松5遺跡には、縄文尖底土器（静内中野式）の時期とみなされる竪穴住居跡があります。

縄文中期…三次郎川右岸遺跡の狭い平坦部分で検出された竪穴住居跡、配石遺構、土壌の多くは中期後半～後期前半のもので、ここの竪穴住居跡は、ベンチ構造が認められるもの、壁際に溝があるもの、掘り込みが浅いもの、埋甕が残るものなど、それぞれに特色があります。また、配石遺構の下には土壌がありました。穂香竪穴群では、モコト式土器の時期の竪穴住居跡、土壌、焼土等が検出されています。

縄文後期…西島松5遺跡では竪穴住居跡と土壌墓が多く見つっています。確認された土壌墓（約150基）のうち後期末～晩期前葉の時期の37基を調査しました。これらの墓の副葬品には、土器、石器、漆製品（櫛、腕輪、玉ほか）、玉類（かんらん岩製、琥珀製など）、サメの歯などがあります。

縄文晩期…キウス5遺跡では台地の縁に土壌が検出され、低地部の旧河川部から木製遺物「キウス型横槌」が出土しています。

擦文時代…柏木川13遺跡では住居跡が検出されていますが、そのうちの2軒は、柱穴の位置から判断して「カリンバ型」と呼ばれるものです。チプニー2遺跡では伸展葬とみなされる墓が検出されました。この墓壇東端部の覆土から擦文土器と鋏先、刀子などの鉄製品がまとまって出土しました。

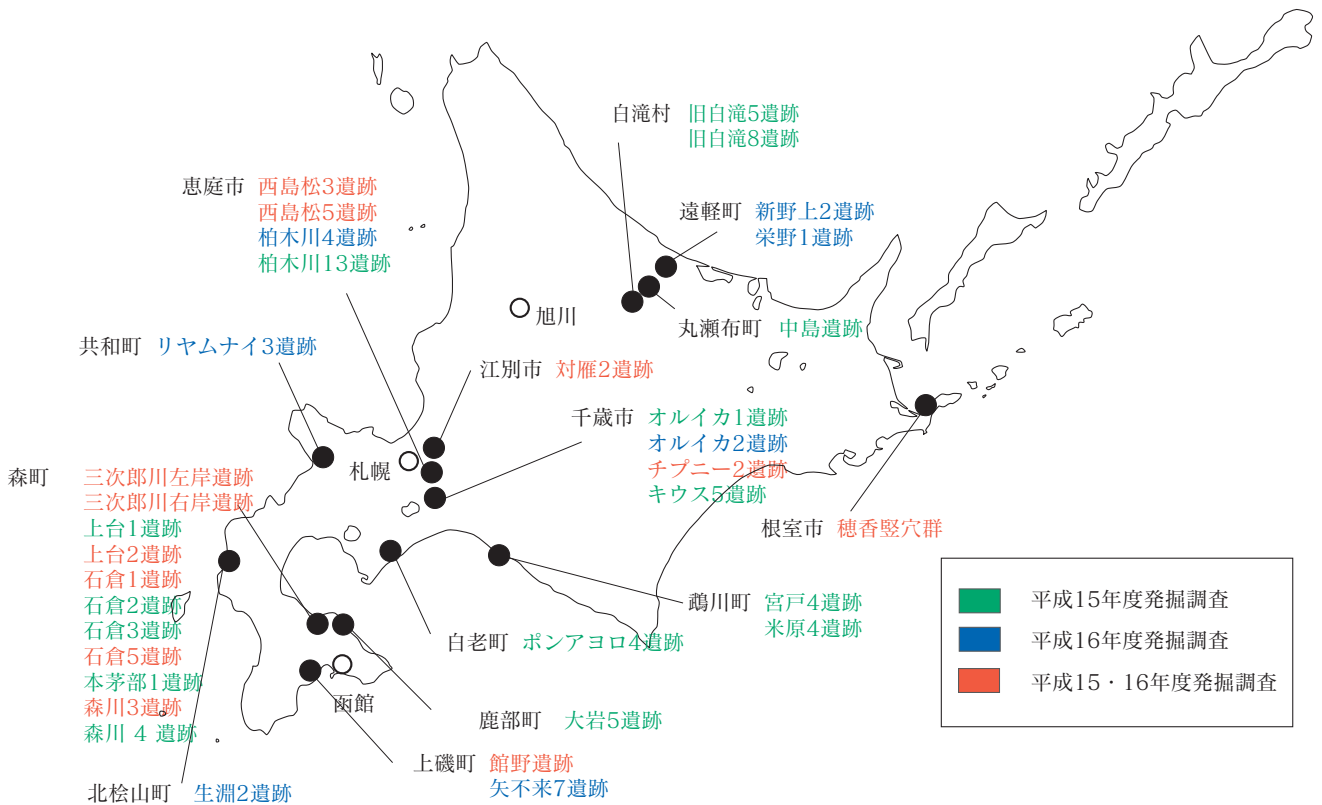
アイヌ文化期…チプニー2遺跡では平地式住居跡、「送り場」遺構、焼土、灰集中などが検出されています。ここでは青磁碗、鉄鍋、刀子も出土しています。キウス5遺跡では3面の畑跡が検出されましたが、いずれも樽前a降下軽石層（Ta-a）よりも下位のもので、ここの低地部からは炉鉤、竪杵、曲物、桶側板などの木製品が出土しています。それぞれの遺跡の詳細については、発掘調査報告書をご覧ください。

### ○平成15年度発掘調査一覧

委託者		原因工事	遺跡名	所在地	調査面積
国土交通省北海道開発局	札幌開発建設部	一般国道337号千歳市新千歳空港関連工事	オルイカ 1	千歳市	1,600
			キウス 5		5,000
			チプニー 2		2,000
	函館開発建設部	函館江差自動車道建設工事 一般国道278号鹿部道路工事	館野 5	上磯町	5,750
			大岩 5	鹿部町	1,800
	室蘭開発建設部	日高自動車道厚真～門別工事	宮戸 4	鷗川町	5,950
			米原 4		1,090
	釧路開発建設部	一般国道36号登別市登別市街拡張工事 一般国道44号根室市根室道路工事	ポニアヨロ 4	白老町	284
			穂香竪穴群	根室市	3,440
	網走開発建設部	一般国道450号白滝丸瀬布道路改良工事	中島 2	丸瀬布町	1,900
旧白滝 8			白滝村	1,160	
旧白滝 5				7,340	
白滝遺跡群				整理作業	
石狩川開発建設部			石狩川改修対雁築堤工事	対雁 2	江別市
日本道路公団	北海道支社	北海道縦貫自動車道建設工事	三次郎川左岸	森町	1,420
			三次郎川右岸		2,600
			石倉 5		962
			石倉 3		3,670
			石倉 2		2,324
			石倉 1		1,900
			本茅部 1		498
			上台 2		5,026
			上台 1		6,200
			森川 4		1,400
			森川 3		60
			濁川左岸ほか		整理作業
			北海道		札幌土木現業所
西島松 5	980				
西島松 3	4,120				
西島松5ほか	整理作業				
合 計					71,072

○平成16年度発掘調査予定一覧

委託者		原因工事	遺跡名	所在地	調査面積
国土交通省北海道開発局	札幌開発建設部	一般国道337号千歳市新千歳空港関連工事	オルイカ 2 チブニー 2	千歳市	6,500 14,700
	函館開発建設部	函館江差自動車道建設工事	館野	上磯町	2,550 整理作業
			矢不來 7		5,000
	小樽開発建設部	一般国道276号岩内共和道路工事	リヤムナイ 3	共和町	3,500
	釧路開発建設部	一般国道44号根室市根室道路工事	穂香堅穴群	根室市	5,000
	網走開発建設部	一般国道450号白滝丸瀬布道路改良工事	服部台 2ほか	白滝村	整理作業
	石狩川開発建設部	石狩川改修対雁築堤工事	対雁 2	江別市	3,550 整理作業
日本道路公団	北海道支社	北海道縦貫自動車道建設工事	三次郎川左岸	森町	280
			三次郎川右岸		1,850
			石倉 5		1,070
			石倉 4		1,852
			石倉 1		3,986
			上台 2		1,560
			森川 3		2,780
			三次郎川右岸ほか		整理作業
北海道	札幌土木現業所	柏木川改修工事	西島松 5	恵庭市	3,892
			西島松 3		975
			西島松 5ほか		整理作業
	函館土木現業所	太櫓川広域基幹改修工事	柏木川 4	北檜山町	8,260
			生淵 2		1,800
	網走土木現業所	社名淵瀬戸瀬(停)線特1工事	新野上 2	遠軽町	2,200
合計			栄野 1		600
					71,905



## ○「北の縄文文化回廊」に向けて

1月31日（土）に、函館国際ホテルで北海道・渡島支庁主催の「北の縄文文化フォーラム」が開催されました。国際日本文化研究センター顧問の梅原猛先生による「日本の基層文化 縄文から現代」の基調講演のあと、国立民族学博物館名誉教授の佐々木高明先生と伊達市教育委員会文化財課長の<sup>ていぶん</sup>大島直行先生が加わり「縄文文化の語りかけるもの」について鼎談が行われました。

各先生は、日本文化の基層である縄文文化を最もよく継承しているのはアイヌ文化であるとの認識にもとづき、縄文文化とアイヌ文化に学び日本の伝統文化や北海道の価値を再発見すべきだ、とのお話をされました。私も、縄文時代の北海道は南北文化のクロスロードであったこと、縄文の文化遺産は未来からの借り物であり、私たちには、それをしっかりと未来に送り届ける責務があることを話しました。

今回のフォーラムは、北東北4県知事サミットの合意によるものですが、折しも森町・鷺の木5遺跡で発見された大規模なストーンサークルの保存論議もある中での開催だったためか約800人の入場者があり、縄文文化への関心の高さがうかがわれました。

埋文センターでは「北の縄文文化回廊」構想に協力しながら、今後も縄文文化に関する最新の情報をきめ細かく紹介していきたいと考えております。

（常務理事 畑 宏明）


 ていだん  
鼎談の様子


## ◆交通案内◆

- ・JR大麻駅から、徒歩約20分
- ・新さっぽろバスターミナル発
  - ・JRバス・夕鉄バス（文教通西循環線・文京台南町行）に乗車「くりの木公園前」下車、徒歩5分
  - ・JRバス・夕鉄バス（江別方面行き）に乗車「道浅井学園大札学院大前」下車、徒歩15分